▌評価結果▐

T-LOGI 習志野

CASBEE®-建築(新築)

使用評価ソフト　：CASBEE-BD_NC_2016 (v4.01)
認 証 番 号　：CBL-CAS建築-0005-22
交　付　日　：2022年1月31日

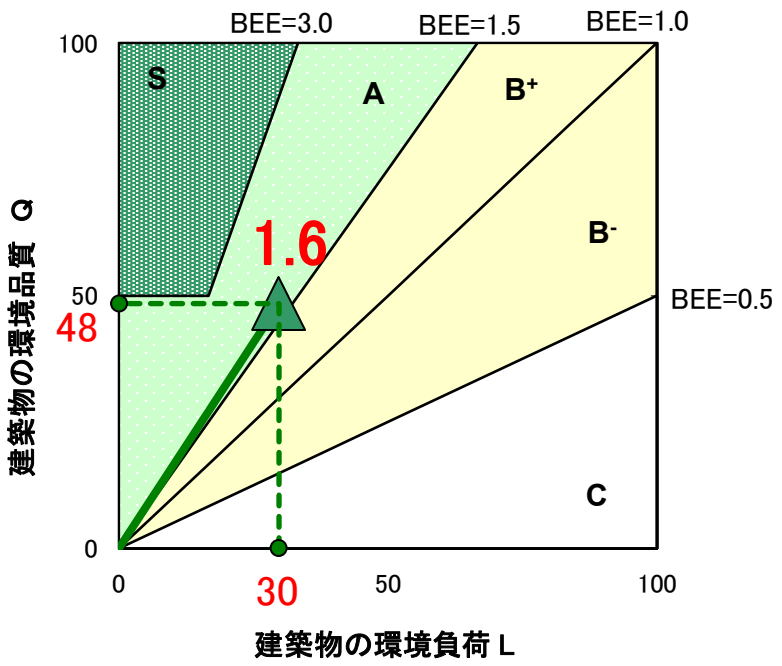
一般財団法人ベターリビング

建物用途	工場	敷地面積	14,009㎡
建設地	千葉県習志野市	建築面積	9,070㎡
気候区分	６地域	延べ面積	33,673㎡
地域・地区	準工業地域、防火地域指定なし	階数	地上4F
竣工日	2022年1月	構造	RC造

建築物の環境効率
（BEE：Built Environment Efficiency）

★★★★☆

S: ★★★★★　A: ★★★★　B⁺: ★★★　B⁻: ★★　C: ★

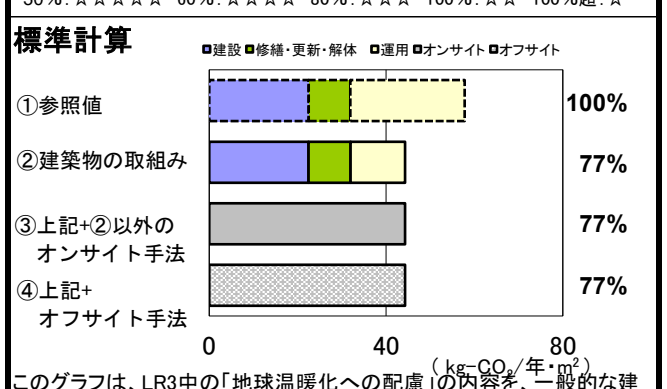


$$BEE = \frac{建築物の環境品質Q}{建築物の環境負荷L} = \frac{25\times(SQ-1)}{25\times(5-SLR)} = \frac{48.4}{29.8} = 1.6$$

ライフサイクルCO_2(温暖化影響チャート)

☆☆☆

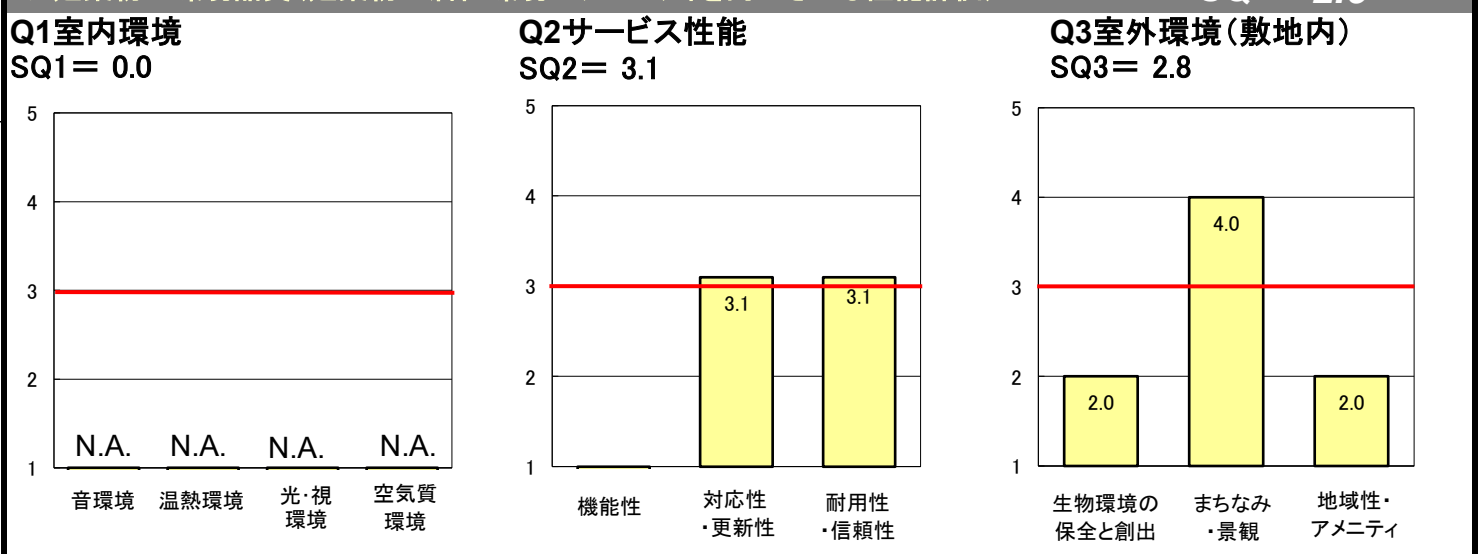
30%:☆☆☆☆☆　60%:☆☆☆☆　80%:☆☆☆　100%:☆☆　100%超:☆



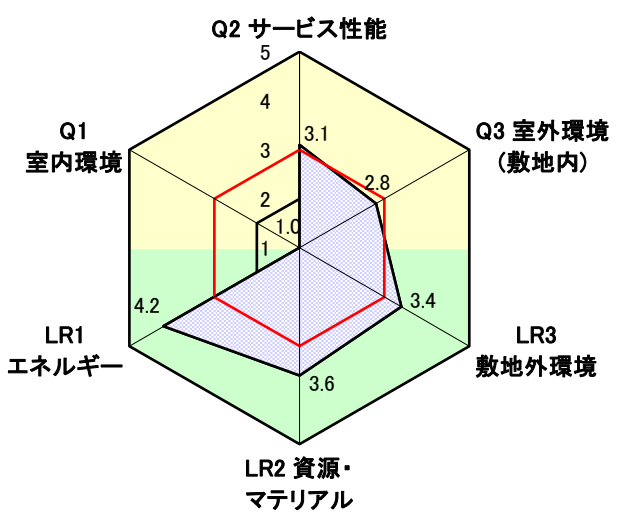
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

中項目の評価（バーチャート）

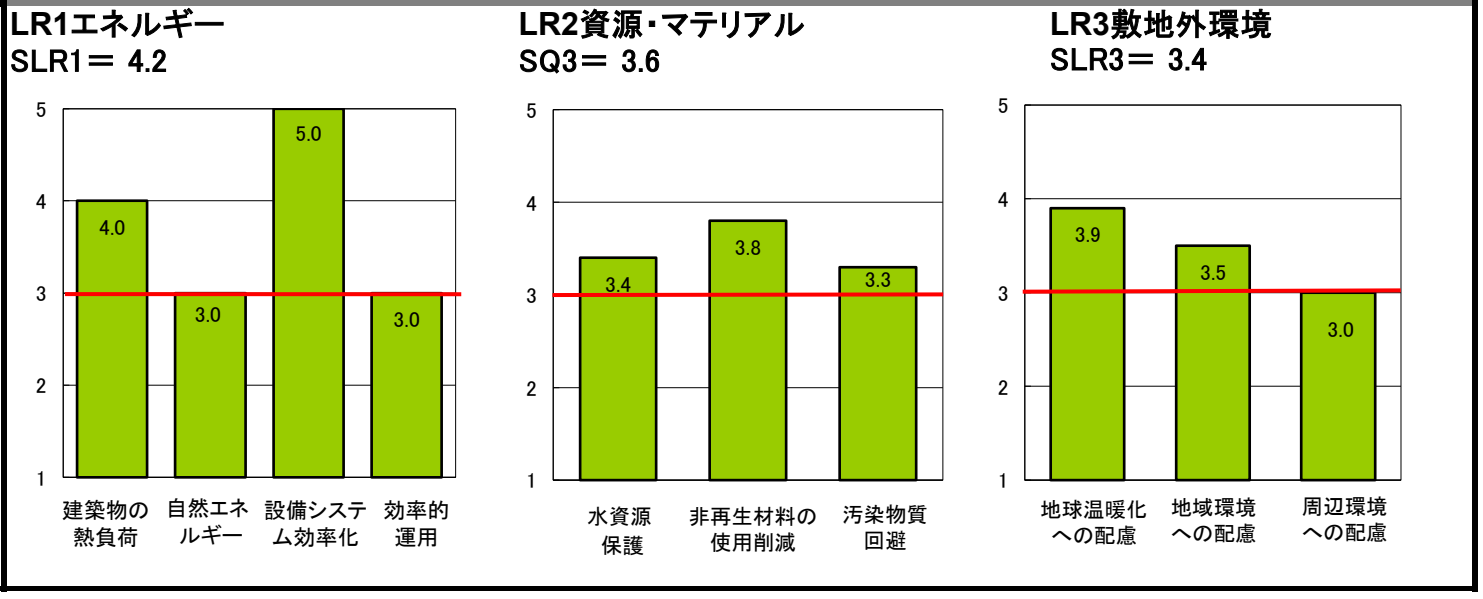
Q　建築物の環境品質（建築物の居住環境のアメニティを向上させる性能評価）　SQ = 2.9



大項目の評価（レーダーチャート）



LR　建築物の環境負荷低減性（建築物の環境負荷を低減させる性能評価）　SLR = 3.8



無断転載禁止

CASBEE-建築(新築)2016年版
習志野市芝園2丁目計画

■使用評価マニュア CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート　竣工段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						**2.9**
Q1 室内環境			-		-	-
1 音環境		-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル	ー	-	-	-	-	
1.2 遮音		-	-	-	-	
1 開口部遮音性能	ー	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能	ー	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	ー	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	ー	-	-	-	-	
1.3 吸音	ー	-	-	-	-	
2 温熱環境		-	-	-	-	-
2.1 室温制御		-	-	-	-	
1 室温	ー	-	-	-	-	
2 外皮性能	ー	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性	ー	-	-	-	-	
2.2 湿度制御	ー	-	-	-	-	
2.3 空調方式	ー	-	-	-	-	
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	
1 昼光率	ー	-	-	-	-	
2 方位別開口	ー	-	-	-	-	
3 昼光利用設備	ー	-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 昼光制御	ー	-	-	-	-	
3.3 照度	ー	-	-	-	-	
3.4 照明制御	ー	-	-	-	-	
4 空気質環境		-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		-	-	-	-	
1 化学汚染物質	ー	-	-	-	-	
4.2 換気		-	-	-	-	
1 換気量	ー	-	-	-	-	
2 自然換気性能	ー	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮	ー	-	-	-	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO_2の監視	ー	-	-	-	-	
2 喫煙の制御	ー	-	-	-	-	
Q2 サービス性能		ー	0.43	-	-	**3.1**
1 機能性		-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	
1 広さ・収納性	ー	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応	ー	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	ー	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	
1 広さ感・景観	ー	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース	ー	-	-	-	-	
3 内装計画	ー	-	-	-	-	
1.3 維持管理		-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	ー	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保	ー	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		**3.1**	0.50	-	-	**3.1**
2.1 耐震・免震・制震・制振		**3.0**	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	ー	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	ー	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		**3.4**	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	ー	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	フッ素樹脂塗装	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数20年以上	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	ー	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	ー	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		**3.0**	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	ー	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	ー	2.0	0.20	-	-	
3 電気設備	ー	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	耐震クラスS	5.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	ー	2.0	0.20	-	-	

無断転載禁止

3	対応性・更新性			3.1	0.50	-	-	3.1
	3.1 空間のゆとり			3.4	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	階高6.2m	5.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	ー	1.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		ー	3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	ー	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	ー	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	ー	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	ー	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	ー	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	ー	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境（敷地内）			ー	0.57	-	-	2.8
1	生物環境の保全と創出		ー	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮		周辺のまちなみや景観に対して、標準以上の配慮が行われている。	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		ー	2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		ー	2.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性				-		-	3.8
LR1	エネルギー			ー	0.40	-	-	4.2
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI＝0.90	4.0	0.20	-	-	4.0
2	自然エネルギー利用		ー	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		BEI＝0.48	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	ー	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	ー	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	ー	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	ー	-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル			ー	0.30	-	-	3.6
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水		節水型便器を用いている。	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	ー	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	ー	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8
	2.1 材料使用量の削減		ー	2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		ー	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		高炉セメントB種	5.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		床：複層ビニル床シート、天井：DR	4.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		ー	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		評価する取組みを2ポイント以上実施している。	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		ー	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
	1	消火剤	ー	-	-	-	-	
	2	発泡剤（断熱材等）	ODP＝0.01未満かつ、GWPが低い発泡剤（GWP（100年値）が50未満）を用いた断熱材等を使用している。	4.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	ー	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境			ー	0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO_2排出率が、一般的な建物（参照値）と同等	3.9	0.33	-	-	3.9
2	地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
	2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		ー	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	ー	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	ー	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	評価する取組み表の評価ポイントの合計値が4ポイント	5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	ー	1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	ー	3.0	0.50	-	-	
	2	振動	ー	3.0	0.50	-	-	
	3	悪臭	ー	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	ー	-	-	-	-	
	2	砂塵の抑制	ー	-	-	-		
	3	日照阻害の抑制	ー	3.0	1.00	-	-	
	3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	ー	3.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策	ー	3.0	0.30	-	-	

無断転載禁止

CASBEE-建築(新築)2016年版　　習志野市芝園2丁目計画

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2　サービス性能															
1.2.3 内装計画	–	–			–	–	–		–						
1.3.1 維持管理に配慮した設計	–		–	–	–	–	–	–	–		–	–			
1.3.2 維持管理用機能の確保	–			–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
2.4.1 空調・換気設備	–		○	–	–	–	–								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	–	–	–	–	–	–						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	–	–	○	–	–							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		–	–	○	–	–	–							
Q3　室外環境（敷地内）															
1　生物資源の保全と創出	4.0		–	–	2.0	–	1.0	–	1.0	–	–	–	–		
2　まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	–	–	1.0	–							
3.1　地域性への配慮、快適性の向上	1.0		–	–	–	–	–	1.0	–	–					
3.2　敷地内温熱環境の向上	5.0		–	–	–	1.0	1.0	–	–	1.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2　自然エネルギー利用	–		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無				–											
2.1　材料使用量の削減	–		–	–	–										
2.3　躯体材料におけるリサイクル材の使用			–	1.0	–	–	–								
2.6　部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	–	○	–									
3.1　有害物質を含まない材料の使用	–														
LR3 敷地外環境															
2.2　温熱環境悪化の改善	6.0		1.0	–	–	3.0	–	–	–	1.0	1.0	–			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	–	1.0	1.0	1.0	–							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	–		–	–	–	–		–	–						
3.2.2 砂塵の抑制	–		–	–											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		–	2.0											

主な指標

Q1　室内環境

2.1.3 外皮性能
- 窓システムSC　–　窓の日射熱取得率（η）–
- U値（W/m2K）　窓システム –　屋根 –　外壁 –　床 –
- 住戸部分　窓システムU値 –　外皮UA値 –　ηAC –　ηAH –

3.1.1 昼光率
- 昼光率　0.0%

4.2.2 自然換気性能
- 自然換気有効開口面積率　0.0%

Q2　サービス性能

1.1.1 広さ・収納性
- 執務スペース　.0㎡ /人　病床　.0㎡ /床　シングル　.0㎡　ツイン　.0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応
- コンセント容量　0.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観
- 天井高　0 m

1.2.2 リフレッシュスペース
- リフレッシュスペース　0.5%　レストスペース　2.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数
- 想定耐用年数　30 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
- 想定必要間隔　15 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
- 想定必要間隔　20 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔
- 想定必要間隔　15 年

3.1.1 階高のゆとり
- 階高　6.2 m

3.1.2 空間の形状・自由さ
- 壁長さ比率　0.0%

3.2　荷重のゆとり
- 床荷重　ー N/m2

Q3　室外環境（敷地内）

1　生物資源の保全と創出
- 外構緑化指数　30%　建物緑化指数　0%

3.2　敷地内温熱環境の向上
- 空地率　0%　水平投影面積率　1%　地表面対策面積率　11%　舗装面積率　26%

LR1　エネルギー

1　建物外皮の熱負荷抑制
- BPI/BPIm　0.90　断熱等性能等級　対象外 相当

2　自然エネルギー利用
- 自然ｴﾈﾙｷﾞｰ直接利用量　0 MJ/年㎡　採光を満たす教室数　0.0%　採光を満たす住戸数　0.0%
- 通風を満たす教室数　0.0%　通風を満たす住戸数　0.0%

3　設備システムの高効率化
- BPI/BPIm　非住宅　0.48　住宅　–　太陽光　.0kW　太陽熱等　.0kW　蓄電池　.0kW

LR2　資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無
- 雨水利用率　0.0%

2.4　躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
- 特定調達品目　–　エコマーク商品　–　自治体指定の特定品目等　–

2.5　持続可能な森林から産出された木材
- 使用比率　0.0%

3.2.1 消火剤
- オゾン層破壊係数（ODP）　地球温暖化係数（GWP）

3.2.2 発泡剤（断熱材等）
- オゾン層破壊係数（ODP）　0　地球温暖化係数（GWP）　11

3.2.3 冷媒
- オゾン層破壊係数（ODP）　0　地球温暖化係数（GWP）

LR3　敷地外環境

2.2　温熱環境悪化の改善
- 見付面積比　90%　隣棟間隔指標Rw 0.73
- 地表面対策面積率　14.0%　屋根面対策面積率　0.0%　外壁面対策面積率　0.0%
- 見付面積Sb　3,198㎡　卓越風向と直交する最大敷地幅Ws　148 m　基準高さHb　23.89 m
- 緑地　1,262㎡　水面　㎡　保水性対策面　㎡　高反射対策面　㎡　再帰性反射対策面　㎡

無断転載禁止